

金沢泉丘高校 北信越大会の結果

日時：平成3年6月17日～20日

会場：福井県営陸上競技場

○:自己新

氏名	種目	予選	準決勝	決勝	順位
相河裕希	400m	51.21	50.49 ○		
山口-橋本-東川-内田	400mリレー	43.09			
中谷侑生	走高跳			1m85 □	9位
角永都和	棒高跳			記録なし	
土井爽舜	棒高跳			記録なし	
山下-山科-山禄-池永	女1600mリレー	4.11.84 ○			
越山実和	女棒高跳			2m70	

大会を振り返って

コロナまん延防止のため県営・市営陸上競技場が使用不可の練習環境の中、十分な準備ができないまま大会を迎えました。しかし、この難しい状況でも、選手は体調管理をしっかり行い、自己新を出せる状態でレースに臨みました。

3年生の相河はラストレースを自己新で飾り、男子400mリレーの内田、女子1600mリレーの山科・山下は、総体時よりも良い走りを見せてくれました。高校3年間の思いを込めた走りに、感動をおぼえました。

山科・角永以外は高校入学後初めてのブロック大会参加であり、予想以上の緊張感とレベルの高さを存分に感じ取ったことでしょう。今年の秋の北信越新人大会では、今回の経験を生かしてほしいものです。

男子400mリレーは1年生3名を起用した将来性の高いチームでしたが、1走山口がスタート直後に大腿部の肉離れを起こし、なんとかバトンを渡す走りとなり残念な予選落ちとなりました。しかし、こんな状態でも43秒0台のゴールタイムは、可能性を秘めていることを示してくれました。今後は、今大会で金沢高校が作った40秒64の県高校記録が大きな目標になると思います。

1年生の女子棒高跳の越山は、課題の多い跳躍の中であってもシーズンベストに近い跳躍ができました。2年男子の中谷の走高跳も、1m90は体が越えており目標のインターハイが現実味を帯びてきました。

今大会にリレー種目でリザーブとして参加した選手や、今大会に参加できなかった選手の中にも、伸び盛りの選手が多くいます。そんな彼らが、7月～8月にかけてじっくりと練習を積み重ねれば、9月の新人大会では、泉丘旋風が巻き起こり、多くの選手が北信越新人大会の出場権を勝ち取ることでしょう。